

平成29年度 決算報告

平成29年度一般会計・特別会計及び企業会計の決算が、市議会9月定例会で認定されました。市民の皆さんに納めていただいた税金や国・県からの補助金などがどのように使われたのかをお知らせします。

平成29年度は、歳入については、固定資産税が新築家屋分で増額となり、法人市民税についても景気の回復などから増額となるなど、市税が前年度より増額となりました。一方で、普通交付税については、合併算定替特例措置の縮減等により減額となる厳しい財政状況ではありましたが、国県補助金及び市債等の活用により所要の財源を確保しました。

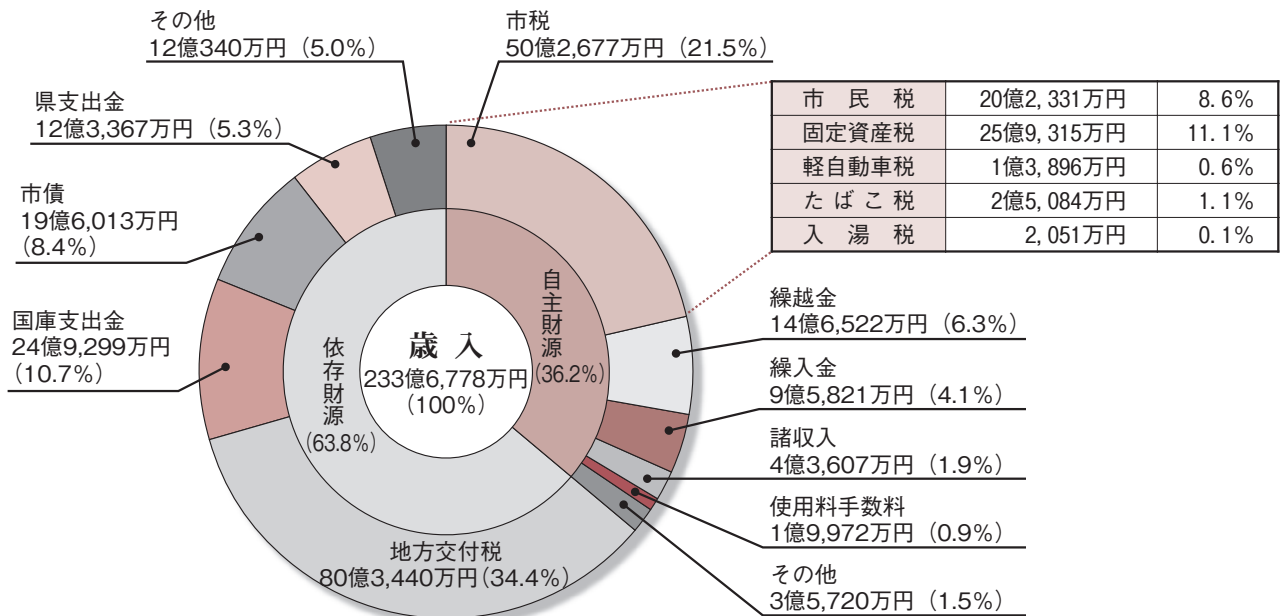
歳出については、地域の特性を生かした地域づくりを推進するための地域創生まちづくり事業や地域創生基金の創設、移住・定住促進として、子育て世帯等の住宅取得奨励金、結婚祝い金の贈呈、同窓会支援事業、地域活性化のため地域おこし協力隊の活用、友好都市との交流事業、高齢者の運転による交通事故の抑制を図るための高齢者運転免許証自主返納支援事業のほか、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催でのパラオ共和国選手団事前キャンプの基本合意書締結と、同国からの研修生の受け入れ、子育て支援を目的とした民間保育所施設整備に対する補助、乳児育児用品の購入

に対する助成、婚活イベントの開催などの結婚応援事業、特定不妊治療費の一部助成、地域医療確保のため常陸大宮済生会病院に対する運営費等の補助を実施しました。

さらに、拡大するイノシシによる農作物の被害を防止するため有害鳥獣捕獲事業、新たに創業する方への支援助成、城里町との連携による御前山・那珂川観光強化事業のほか、常陸大宮駅周辺整備事業、宇留野環橋及び辰ノ口橋の耐震補強工事を実施しました。

このほか、災害に備えた防災ガイドブック及び広域避難計画避難経路図の全戸配布、防災行政無線デジタル化、児童の安全確保を目的として小学校への防犯カメラ設置、第二中学校屋内運動場改築工事、市の歴史・文化などを調査研究する市史編さん事業、学校給食センター整備にあたっての予定地内地形測量など多岐にわたる事業を実施しました。

一般会計の歳入決算額は233億6,778万円、歳出決算額は221億8,241万円で、歳入歳出差引残額は11億8,537万円となりますが、翌年度に繰り越した事業に充てる財源として6,525万円を差し引いた実質収支額は11億2,012万円となります。



平成29年度特別会計・公営企業会計決算額

会計名		歳入（A）	歳出（B）	差引（A－B）
国民健康保険	事業勘定	58億1,456万円	55億711万円	3億745万円
	診療施設勘定	1億8,218万円	1億7,059万円	1,159万円
公共下水道事業		8億5,790万円	8億106万円	5,684万円
公営墓地		8,554万円	995万円	7,559万円
農業集落排水事業		5億6,425万円	5億2,997万円	3,428万円
介護保険		51億1,107万円	49億5,364万円	1億5,743万円
宅地造成事業		738万円	707万円	31万円
戸別浄化槽整備事業		4,899万円	4,781万円	118万円
温泉事業		6,887万円	6,530万円	357万円
後期高齢者医療		4億8,847万円	4億8,731万円	116万円
那珂地方公平委員会		83万円	7万円	76万円
上水道事業	収益的収支	14億2,388万円	12億8,540万円	1億3,848万円
	資本的収支	3億4,556万円	6億9,255万円	▲3億4,699万円
合計		149億9,948万円	145億5,783万円	4億4,165万円

※上水道事業会計の資本的収支の差引▲3億4,699万円（不足額）は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

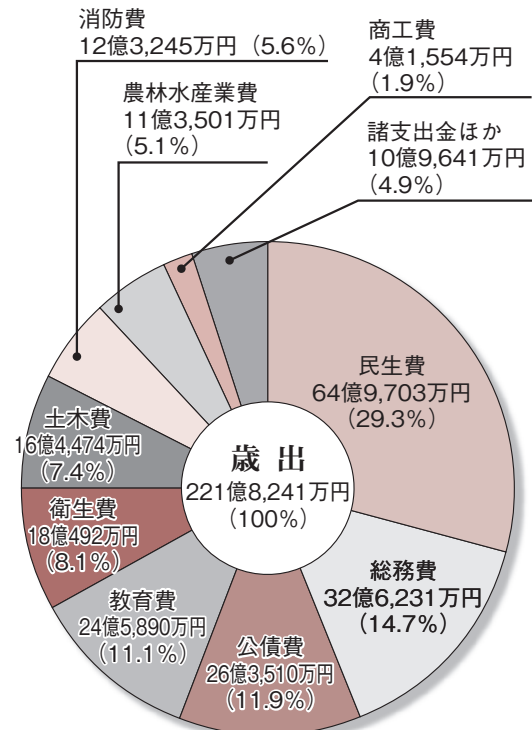
《諸支出金ほか》
基金積立、議会等に係る費用
◆財政調整基金積立
◆都市施設等整備事業基金積立
◆市債管理基金積立など

《商工費》
商工振興に係る費用
◆商工会助成事業
◆企業誘致推進事業
◆観光振興対策事業
◆観光施設管理事業など

《農林水産業費》
農道・林道整備や農林水産業振興等に係る費用
◆土地改良事業等による農道・排水路整備
◆林道整備事業
◆農業委員会費
◆農業振興対策事業
◆有害鳥獣捕獲事業
◆木造住宅建設助成事業など

《消防費》
消防団運営、消防施設等の整備に係る経費
◆消防水利（防火水槽・消火栓）整備事業
◆消防機械器具置場整備事業
◆消防ポンプ自動車購入事業
◆防災行政無線デジタル化整備事業
◆災害対策事業など

《土木費》
道路・橋梁整備、公営住宅管理等に係る費用
◆市道・橋梁整備事業
◆公営住宅、公園等管理事業など



《衛生費》
保健衛生、広域聖苑管理運営、ごみ収集等に係る費用
◆健康診査、各種予防接種事業
◆常陸大宮済生会病院運営安定化支援
◆広域聖苑管理運営費
◆大宮地方環境整備組合負担金
◆ごみ収集委託など

《公債費》
過去の借入金の返済等に係る費用
◆元金償還
◆利子償還

《民生費》
障害者・高齢者福祉、保育所費等に係る費用
◆障害者自立支援事業
◆保育所費、延長保育実施助成
◆老人医療給付事業
◆児童手当
◆生活保護事業
◆医療福祉費
◆児童扶養手当
◆防犯対策事業など

《総務費》
全般的な管理、徴税、地域振興等に係る費用
◆市内循環バス運行事業、予約制乗合タクシー運営事業
◆区運営費
◆定住促進事業
◆徴税対策費、選挙費
◆財産管理費、支所管理費
◆情報システム管理費
◆地域創生基金積立など

《教育費》
小・中学校・幼稚園管理費、生涯学習・スポーツ振興等に係る費用
◆小中学校校舎等の環境整備、備品の充実
◆小中学校通学対策事業
◆第二中学校整備事業
◆小学校英語指導員、中学校英語指導助手配置事業
◆中学生海外研修事業
◆青少年育成事業、文化センター・図書情報館、公民館、歴史民俗資料館管理運営費
◆文化財保護費、市史編さん事業
◆スポーツ教室開催事業
◆体育施設管理費
◆学校給食センター運営費など

平成29年度末市債の現在高

区分		現在高
一般会計	合併特例事業債	64億4,665万円
	過疎対策事業債	31億9,354万円
	臨時財政対策債	106億6,354万円
	その他	50億7,034万円
	一般会計計A	253億7,407万円
特別会計・企業会計	※Aから地方交付税算入分を除いた市債残高	54億2,975万円
	国保診療施設勘定	1億71万円
	公共下水道事業	31億9,038万円
	公営墓地	2億2,615万円
	農業集落排水事業	29億7,170万円
	宅地造成事業	261万円
	戸別浄化槽整備事業	1億2,260万円
	温泉事業	2億7,220万円
	上水道事業	37億4,535万円
	特別会計等計B	106億3,170万円
※Bから地方交付税算入分を除いた市債残高		67億447万円
合計（A＋B）		360億577万円
※合計（A＋B）から地方交付税算入分を除いた市債残高		121億3,422万円

※印の区分は、市債のうち合併特例事業債や過疎対策事業債など、毎年度の元利償還額の一部を地方交付税で補填される市債があり、それらの市債の残高から補填される金額を除いて実際に市が負担する見込み額です。

市民1人当たり・1世帯当たりの基金及び市債の現在高

区分		1人当たり	1世帯当たり
基金	積立基金	26万1千円	63万円
	定額運用基金	2万9千円	7万円
	合計	29万円	70万円
市債	一般会計	59万5千円 (12万7千円)	143万8千円 (30万8千円)
	特別会計＋企業会計	24万9千円 (15万7千円)	60万2千円 (38万円)
	合計	84万4千円 (28万4千円)	204万円 (68万8千円)

※上記の金額は、平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口と世帯数（42,637人、17,648世帯）を用いて算出しています。
また、市債の「1人当たり」及び「1世帯当たり」の（ ）書きの金額は、地方交付税で補填される金額を除いた額になります。

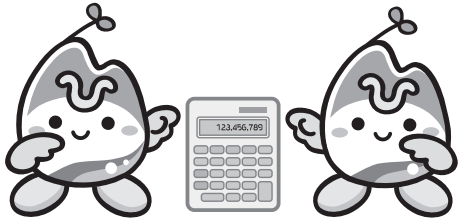
市民の皆さんの市税負担額と市の歳出額

区分	1人当たり	1世帯当たり
市税負担額	117,897円	284,835円
歳出額	520,262円	1,256,936円

※上記の金額は、平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口と世帯数（42,637人、17,648世帯）を用いて算出しています。

■問い合わせ■ 財政課 財政グループ ☎52・1111(内線376)

ひたまるさんの家計簿



財政用語が難しかったり、金額の桁数が大き過ぎて実感がわかないと言われることが多いので、市の財政状況を身近に感じていただけるように、一般会計の決算規模を5000分の1に縮小して『ひたまるさんの家計簿』に例えて表現してみました。

市の財政と家庭の家計簿では仕組みが違い、完全な置換えが難しいところが多々あることをご了承ください。

収 入				
収入費目	歳入区分（目的別）	H29家計の収入	H28家計の収入	比較増減
給料	市税・分担金及び負担金・使用料及び手数料など	119万円	118万円	1万円
実家からの援助	地方交付税・各種交付金・国県補助金など	259万円	273万円	▲14万円
不動産収入	財産収入など	2万円	1万円	1万円
銀行などからの借入金	市債	39万円	44万円	▲5万円
貯金の取崩し	繰入金	19万円	24万円	▲5万円
前年度からの繰越金	繰越金	29万円	37万円	▲8万円
1年間の収入合計		467万円	497万円	▲30万円

支 出				
支出費目	歳出区分（性質別）	H29家計の支出	H28家計の支出	比較増減
食費	人件費	75万円	75万円	－
電気・水道代などの日常生活費	物件費	66万円	68万円	▲2万円
医療費・介護費用など	扶助費	73万円	73万円	－
ローンの返済	公債費	53万円	52万円	1万円
家・車の修理代など	維持補修費	3万円	3万円	－
区会費・お祝金など	補助費等	43万円	45万円	▲2万円
子どもへの仕送り	繰出金	51万円	59万円	▲8万円
家の増改築・車の購入代など	投資的経費（普通建設事業費・災害復旧費）	46万円	64万円	▲18万円
友人への融資	投資及び出資金・貸付金など	1万円	1万円	－
貯金	積立金	33万円	28万円	5万円
1年間の支出合計		444万円	468万円	▲24万円

次年度への繰越金（収入－支出）	23万円	29万円	▲6万円
-----------------	------	------	------

平成29年度

常陸大宮市の健全化判断比率・資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）」に基づき、平成29年度の健全化判断比率・資金不足比率を公表します。

財政健全化法は、地方公共団体の財政の健全性に関する指標の公表制度を設け、その比率に応じて財政の早期健全化及び財政の再生、公営企業の経営の健全化を図るための必要な対策を実施することにより、地方公共団体の財政破綻を未然に防ぐことを目的としています。

早期健全化基準を超えた場合は財政健全化計画を、資金不足比率が経営健全化基準以上になった場合は経営健全化計画を定めることになります。

平成29年度決算に基づき算定された常陸大宮市の健全化判断比率及び資金不足比率は、以下のとおりすべての指標において基準値を下回り健全性を維持しました。

健全化判断比率

指標名	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準	備考
実質赤字比率	－※1	12.87%	20.00%	普通会計※2の赤字を標準財政規模※3と比較したものです。
連結実質赤字比率	－	17.87%	30.00%	市の全ての会計の赤字や黒字を合算し、標準財政規模と比較したものです。
実質公債費比率	7.5%	25.0%	35.0%	特別会計や一部事務組合等も含めた市の実質的な公債費を、標準財政規模と比較した3か年の平均値です。
将来負担比率	15.1%	350.0%		市の借金のほか関係法人等まで含めて市が将来支払わなければならない債務を、標準財政規模と比較したものです。

※1 赤字がないため、実質赤字比率と連結実質赤字比率は「－」と表示しています。

※2 一般会計と公営墓地、温泉事業、那珂地方公平委員会の3つの特別会計を合わせたものです。

※3 地方公共団体が標準的に収入されると見込まれる市税などの一般財源の規模を示すものです。

資金不足比率

会計名	資金不足比率	経営健全化基準	備考
上水道事業会計	－	20.0%	資金不足比率は、公営企業会計ごとの資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較した比率です。
公共下水道事業特別会計	－		
農業集落排水事業特別会計	－		
戸別浄化槽整備事業特別会計	－		
宅地造成事業特別会計	－		

資金不足額がないため、資金不足比率は「－」と表示しています。